

平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞 受賞記念奈良フォーラム

アジア 多様性の力

アジアの文化や社会科学の分野で功績があった個人や団体を表彰する国際賞「平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞」の第3回授賞式典と記念フォーラム(読売新聞社など後援)が15日、奈良市の奈良春日野国際フォーラムで開かれた。

大賞は、経済改革を中心にミャンマーの民主化を進めた前ミャンマー大統領のテイン・セイン氏。経済・社会科学賞は、都市集積に注目して地域経済を分析する「空間経済学」の発展に大きく貢献した甲南大特別客員教授の藤田昌久氏。文化賞は、俳句愛好家の前欧州理事会常任

議長(EU大統領)のヘルマン・ファンロンパイ氏にそれぞれ贈られた。

荒井正吾・奈良県知事の開会あいさつの後、前国連大使の吉川元偉氏が「国連におけるアジアの役割」と題して基調講演。続いて受賞した3氏がそれぞれ記念講演を行った。

基調講演

吉川元偉氏 前国連大使

国連大使としての経験を踏まえ、私の個人的な意見を述べたい。

国連で最も強力な権限を持つ、15か国からなる安全保障理事会のうち、アジアは3議席だ。国連加盟国がアジアの半分しかない西欧と米国は5議席を占める。アジアは加盟国数に見合った発言権を割り当てられていない。

奈良県生まれ。1974年に外務省入省。2013年から昨年6月まで国連大使。65歳。



軍の要職を歴任し、2007年に首相。11年に大統領に就任。民主化勢力との対話を進めた。昨年3月に退任。71歳。

大賞

テイン・セイン氏

前ミャンマー大統領

私はミャンマー奥地の小さな村の出身で、幼い頃は教育環境が整っていなかった。大学進学が難しかったため、軍士官学校を選んだ。大統領になるのは夢にも思っていなかったが、国家の情勢と運命が私を大統領にした。

2011年3月に就任した時の目標は、ミャンマーを穏やかで平和な民主国家にすることだった。若者のために良い将来を構築し、アジアの豊かさを共有できる国になってほしいと願った。

そこで三つの分野の改革を同時に行った。軍政から民政への移行、武装勢力との和解、中央統制型から自由な経済体制への移行だ。これらは関連性があり、一つの改革の成功が、他の改革に大きな影響を与えるからだ。

民主的な政府こそ、経済発展や持続可能な平和を構築できる。一部の対抗勢力の国会参加を可能にし、多くの囚人に恩赦を行った。国民が自由に発言できるようにメディアに表現の自由を与え、ソーシャルメディアも幅広く使えるように携帯電話の利用可能地域を農村まで広げた。

政権が始まった頃の貧困

民主国家 5年で道筋

率はずっと30%。貧困を減らすため、国民の7割が住む農村地域の発展計画を導入した。ミャンマーには資源はあるが、経済立て直しに必要な資本、技術、人的資源が不足している。外国からの投資を呼び込むため、法律を改正し、投資環境を整えた。

国民生活の向上に向けては、電力や浄水、農業・畜産、雇用拡大など7分野の開発に取り組んだ。長期的な国家政策を策定する際、正確な統計や図表を活用できるよう、30年以上実施していなかった国勢調査も14年に行った。

経済発展の障害になっていた経済制裁の緩和も重要だった。米国や欧州各国に出向き、首脳らと会談を重ねて民主主義の導入と実践を説明した。

その結果、国内外の投資が増え、観光も発展し、経済成長率は年平均約7%になった。この間の日本政府の協力には大変感謝している。

5年間の任期中、国内の和平構築、安定的な国家建設、全員参加可能な政治、社会経済の向上などが実現した。私の働きがアジア域内の諸国にも良い影響を与えたとすれば、非常にうれしい。

発言力向上へ安保理改革

平和維持活動(PKO)でも、日本や中国、インド、パキスタンなどアジアの国々は財政拠出と要員派遣の両面で大きな貢献をしている。

アジアの発言力を強化するためにも、安保理の改革が急務だ。日本はインド、ブラジル、ドイツと協力し、改革を目指している。理事国を25か国に拡大すれば、アジアの議席は6に倍増する。国連憲章の改正に必要な加盟国の3分の2の賛成が得られるように取り組みを進めなければならない。

アジアは世界経済のエンジンになりつつある。しかし、地域の安定なしに各国の安全保障の確保、安定した経済発展は実現できない。

北朝鮮の核・ミサイル開発を阻止するため、関係国が安保理制裁決議を履行しているかを監視する必要がある。領土問題については、平和的な交渉で解決するという国連憲章に基づき、法の支配を徹底することが大切だ。

日本が果たすべき役割も大きい。現在、国連通常予算の分担率は米国に次ぐ9.7%に上る。昨年から安保理非常任理事国となった。通算11回目の選出は加盟国中で最多だ。アジア各国と協調しながら、国連で指導力を発揮することが求められている。

経済・社会科学賞

藤田昌久氏

甲南大特別客員教授



京都大学工学部卒業。米ペンシルベニア大学教授、京都大学経済学研究所長、日本経済学会長などを歴任。2007年から現職。73歳。

21世紀は「アジアの世紀」と呼ばれる。アジア開発銀行の予測では、2050年にアジアのGDPは世界の52%を占め、欧州全体の3倍、北米の4倍になるという。

しかし、楽観はできない。トランプ米大統領の登場で環太平洋経済連携協定(TPP)には赤信号が点灯した。他の11か国は米国を根拠強く説得していくべきだ。

一方、アジアが発展し続けるためには、サプライチェーン(供給網)の発達と諸国間の賃金格差を活用した「世界の工場」から、アジア全体が知識創造社会の世界的な中心に脱皮する必要がある。

そのためには、人工知能やロボット、様々なモノをインターネットにつなげる「IIo

知識創造社会の源泉

「I」などを利用して先端的な生産拠点をつくると同時に、金融や資産を含む質の高い市場を構築しなければならぬ。平和を維持し、国際協力のもとに多様性を促進しながら経済統合を進めていくことが不可欠だ。

アジアは民族、伝統、価値観、宗教、言語、文化において非常に多様性に富んだ地域であることを強調したい。多様性は知識創造社会に向けた大きな潜在力だ。欧州の開発の源泉も、多様な文化、異なった言語が狭い地域にたくさんあることだと思う。

なぜ多様な文化が知識の創造につながるのか。一人ひとりの頭脳や社会全体の「脳力」の多様性が相乗効果を生み出すからだ。「三人寄れば文殊の知恵」というが、共通知識が肥大化すると相乗効果は弱まり、「三年害ればただの知恵」になりかねない。

旧約聖書の創世記にある「バベルの塔の物語」で、一つの言語で統一された人類は神に挑んで塔の建設を始め、怒った神は多数の異なる言語を与えて人類を分散させた。それは罰だったのか。バベルの塔から追放された後、時間とともに各地に独自の文化が形成され、地域間の協力が始まった。多様な文化が多くの知識を生んだのだ。罰に見えかけていた天恵だったと言えるだろう。

私たち人間は地球全体の非常に多様な文化に富むエコシステムの中で生きていかなければならない。それに対する尊敬と敬意を払いながら、多様性の中で発展していくべきだ。

文化賞

ヘルマン・ファンロンパイ氏

前欧州理事会常任議長(EU大統領)



元ベルギー首相。2009年、初代欧州理事会常任議長に就任。これまでに5年任期を満了。EU俳句大使。69歳。

俳句 現代の混乱解く

俳句は世界遺産の一部と言ってもいい。昨年はアフリカで俳句コンテストがあり、閉会式に私も出席した。もはや日本の専有物ではなく、世界の国々、特に若者にとってクールなものとなっている。

17首で身の回りの出来事や気持ち、自然を表現する俳句は、誰もが持つ素朴な感情を語り、自分と自然、季節、他者との関わりを詠む。その簡潔さは道徳的な価値や誠実さ、真実性でもある。事実かどうかは二の次にされる「ポスト真実の時代」から、かけ離れた存在だ。

俳句を読む人は、自らが自然や宇宙に依存する存在であることを忘れない。国と国との関係でも、私たちは相互に依存していることを認識しなくてはならない。同じ船に乗って運命を共にしているのだ。こうした認識から欧州連合(EU)が生まれた。

世界では今、不安や怒り、憎悪が広がり、米国や英国の政治の場を顔を出している。皮肉に満ちた世界で俳句は無い。しかし、その無邪気さ、美しさ、西洋だけのものではない。古代ギリシャ・ローマで徳の高い人が求めた「真・善・美」は、西洋だけのものではない。世界をより良いものにするという希望を示すものだ。地に足を着けたまま、別の世界に行きたいという気持ちを表す。これこそが世界中で俳句が愛されている理由だ。決して偶然ではない。俳句こそが現代の混乱を解く答えになっていると思う。

古代ギリシャ・ローマで徳の高い人が求めた「真・善・美」は、西洋だけのものではない。世界をより良いものにするという希望を示すものだ。地に足を着けたまま、別の世界に行きたいという気持ちを表す。これこそが世界中で俳句が愛されている理由だ。決して偶然ではない。俳句こそが現代の混乱を解く答えになっていると思う。

誇りと名誉の極み

荒井正吾・奈良県知事

奈良は国際性で成立した都であり、多くの外国の方が訪れ、大陸や韓半島の文明を取り入れることによって、日本の国ができました。そのことに感謝を表すために何かしたいという思いが、賞には込められています。今回も素晴らしい方々が受賞し、来県いただいたことに感謝します。奈良の誇りと名誉の極みです。

新たな共同体へ一歩

西村英俊・ERIA事務総長

多様性こそ21世紀のグローバル社会におけるキーワードです。多様性が人と人とのつながりを生み出し、イノベーションを触発し、文化融合と相互理解を促します。それぞれの受賞者の精力的な活動と尽力は、着実に新しい価値を創造し、将来の東アジア共同体形成に向けての新しいフェーズを切り開くでしょう。

ASEAN経済統合の様相を知る。

Economic Research Institute for ASEAN and East Asia(ERIA)は2008年にジャカルタにて設立された国際機関です。設立以来、経済統合や域内格差是正など、この地域の抱える課題に関する調査研究及び政策提言を実施し、ASEAN及び東アジア地域における地域の政策意思決定に関与しています。

東アジア・アセアン経済研究センター
そのほかのレポートや報告書は <http://www.eria.org>
お問い合わせは E-mail: contactus@eria.org

ASEAN RISING: ASEAN and AEC Beyond 2015

2025年のASEAN経済共同体を網羅的に展望する研究書

2015年世界有識者シンクタンク評価報告書最優秀政策研究・政策レポート部門賞受賞。同部門で唯一ASEANを取りあげた、ASEAN経済共同体ブループリント(行経表)2025を読み解くための必読書。

第1章 ASEANとAEC: 進展と課題 / 第2章 ASEANと東アジア: ASEANにおける経済的・社会的公平な成長の実現に向けた取組 / 第3章 ASEAN域一市場と第一生産高地の実現に向けた統合された高度に競争的なASEAN / 第4章 ASEANの競争力とダイナミクス / 第5章 ASEAN 包括的でタフなASEANの実現 / 第6章 ASEANの経済的・社会的発展 / 第7章 ASEANの環境・社会・ガバナンス / 第8章 ASEANおよびAECを2015年以降も推進させる AECブループリント2015年以降の展望の展望と主要な課題 / 参考文献 / 索引

協賛書局
編著 / ボンチア・インタラクティブ、福永佳史、木村相成、ブー・ハン、フィリッパ・ディ、デロニシウス・ソリス、ソニア・オム
定価 / 4,500円+税(予定)

アセアン統合の衝撃

急成長する巨大経済圏ASEANとどう付き合おうかが日本企業生き残りのカギ。

統合深化の知的中枢である東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)の西村英俊事務総長ら専門家が、域内の自動車・電機産業など様々な分野の現状を分析、将来展望を論じる。(読売新聞短評より)

第1章 アセアンの現状
第2章 アセアン共同体
第3章 アセアンを支える産業～電機産業
第4章 アセアンを支える産業～自動車産業
第5章 アセアンの貿易と協定
エビローク アセアンとTPP

ビジネス社
編著 / 西村英俊、小林英夫、浦田秀次郎
定価 / 1,600円+税

ASEANの自動車産業

ASEANにおける自動車産業の生成を、最新の理論で分析。

ERIA-TCER アジア経済統合叢書シリーズ(全10巻刊行予定)

ASEANで生じ発展してきた自動車部品産業の生産ネットワーク。地域工程間分業についてASEANの自動車・部品産業の現状を明らかにし、その将来展望を提示する。

序章 ASEAN自動車 部品産業の現状と地域統合 / 第1章 自動車 部品産業 / 第2章 ASEANの自動車 部品産業 / 第3章 ASEANの自動車 部品産業 / 第4章 ASEANの自動車 部品産業 / 第5章 ASEANの自動車 部品産業 / 第6章 ASEANの自動車 部品産業 / 第7章 ASEANの自動車 部品産業 / 第8章 ASEANの自動車 部品産業 / 第9章 ASEANの自動車 部品産業 / 第10章 ASEANの自動車 部品産業

ASEANから発展する工程間分業という新しい自動車産業の姿。

協賛書局
編著 / 西村英俊、小林英夫、浦田秀次郎
定価 / 4,500円+税